中国における新しい美術教育課程改革の動向について

―2011年の《全日制義務教育美術課程標準》の改訂を中心に―

麻　麗娟*・福田隆眞

About the Trend of the New Curriculum of Art in China
The focus on the Revision of《Full-time obligation of art education courses standard》in 2011

MA Lijuan and FUKUDA Takamasa

(Received September 27, 2013)

はじめに

現在、中国では「素質教育」という教育方針に基づいた第八回の教育課程改革が中国全土で行われているところである。美術科目において2001年初めて正式に公布された《全日制義務教育美術課程標準》は、2013年まで数回の改訂が行われた。2011年に新たに改訂された《全日制義務教育美術課程標準》は、美術教育における諸課題を新たな視点で見直し、美術教育の未来を支えるものとなることを期待して改善が図られたものである。本稿では改訂された2011年の《全日制義務教育美術課程標準》を中心に、改訂された経緯と内容を考察し、改訂のポイントを述べる。

1　2011年の新たな《全日制義務教育美術課程標準》改訂の経緯と構想

今回改訂の指導方針は《基礎教育課程改革綱要》と《国家中長期教育改革と発展規綱要（2010-2020年）》の主旨に基づき、美術科目の発展と美術教育の現状などを考慮し、《全日制義務教育美術課程標準》（以下《標準》と略称する）をもっと科学的、実行的にし、人々の素質と社会的発展を最も相応させるものである。

改訂の構想については以下である。

1、2001年公布された《標準》の基本的な理念と学習領域を保持し、適切に調整、充実させ完全にすることを主とし、大きな変化を行わないこと。
2、学生の発展と教師の教学現状に基づき改訂すること。
3、国際社会のレベルを求めながら、中国の特色と結合させること。
4、美術科目そのものの教育と美術を通しての教育機能のバランスをよく取ること。
5、もっと科学的、理性的な述べ方で本文を述べること。
6、本文の緻密性を求め、分かりやすいようにすること。

そして、2001年から2010年まで主な改訂は３回行われた。

第一回目：2004年～2005年の改正の内容：

＊中国陝西師範大学

主に中国の伝統美術と民間美術に対し、特に強調されること。また、《中共中央国務院は未成年者の思想と道徳に関する強化や改善の若干の意見》の精神を貫徹するため、道徳の教育を浸透するようにすること。さらに、従来の基本知識と基礎的な技能に関する言語があまりにも広範囲で大まかであったため、その具体的な内容と規範性をある程度強めた。

第二回目：2007年～2010年の改正の内容：
1．課程標準の緒言部分において、理論的内容を増やし、規範的に述べるようにすること。
2．統一的な様式で、新たに緒言部分の文字をまとめること。
3．課程標準の総目標に関する言葉の表し方を改正すること。
4．“設計・応用”と“鑑賞・論評”領域の内容に関して、大幅な調整が行われた。
5．中国の伝統美術に関する内容をさらに強化している。
6．“学習活動の提案”をさらに充実し、“評価の提案”を“評価の標準”に変え、その内容を改善している。
7．本文を更に緻密に完成させている。

第三回目：2011年２月の改訂ポイント：
1．緒言の内容と述べ方を改訂すること。
2．本文の構造をさらに合理的に調整すること。
3．“設計・応用”と“鑑賞・論評”領域の内容に関して、分かりやすく理解するように大幅な調整を行うこと。
4．“実施するための提案”に関して幾つかの項目を一括にすること。

以上のような改善の具体的事項に基づき、新たに《全日制義務教育美術課程標準》が公布された。ここでは今回の改訂のポイントについて述べる。

2　2011年の新たな《全日制義務教育美術課程標準》改訂のポイント

1．目標の改善

2011年と2001年の《標準》と比較し、今回の総目標の改善点を明らかにする。

	2011版	2001版	改善点
課程総目標	課程総目標は“知識と技能”、“過程と方法”、“情感、態度、価値観”三項目での目標を提出する。 学生は、個人やグループで各種の美術活動に参加し、創意工夫を喚起し、美術言語および美術言語を伝える方式や方法を理解する；各種の器具や媒材を用い、創作活動を行い、情感や考えを表現し、	学生は、個人やグループで各種の美術活動に参加し、各種の器具や材料を用い、制作過程を試み、美術鑑賞と評論方法を学ぶことによって、視覚、触覚と審美経験を豊かにし、美術活動の楽しみを体験して、美術学習の永続的な興味を会得する。また、基本的な美術言語を伝える方式と方法を理解し、	2011年の《標準》は美術課程における“知識と技能”、“過程と方法”、“情感、態度、価値観”三項目での目標を明らかに提出し、課程総目標に加えて述べている。ここでは学校における美術教育の目的は単純に知識と技能を習得するだけではなく、自ら習い、美術学習に興味を持たせることなど、

	環境や生活を改善する。美術鑑賞や批評する方法を学び、審美力を高め、美術が文化や生活、社会発展に独特な役割を理解する。学生が美術学習を通し、視覚や触覚と審美経験を豊かにし、美術学習の永続的な興味を会得し、基本的な素養を養う。	自分の感想や思想を表現し、環境と生活を美化する。即ち、美術学習の過程で、創造力を喚起し、美術実践力を修得し、基本的な美術素養を形成し、高尚な情操を陶冶することによって、人材の薫陶養成を図ることにある。	知らず知らずのうちに正しい価値観と情感や態度を養う目的もある。このように三項目での目標の明確、美術教育現場の教師にとって、授業理念や授業実践中の基本原則となっている。

2．内容の改善

1）“造形・表現”学習領域は九年義務教育段階の美術課程内容の中の基本領域である。美術の各種類を含め、実践や体験などの美術学習の特徴が強く、学生に興味を持たせやすいのである。そのため、2011年の標準では、まず、第一、従来の“材料”ではなく“媒材”を提出することを注目する。これは、美術造形活動を展開するたび、生徒に多種多様な創作材料（クレヨン、宣紙、木材や石など）を熟知するだけではなく、“媒介”の面（例えば、図版表現、ビデオ映像、総合媒材など）で授業を考える必要があると思われる。また、造形活動において生徒の視覚における伝達と表現の内容を体験することを考慮している。第二、貼ったり、組み立てたりすることが造形の基本的な手段と方法に加え、表現の方法はもっと開放的、多元的になること。第三、徐々に基本的な造形能力を形成するようにすること。このように“造形・表現”学習領域では美術そのものの教育を重視し、その目的としては生徒たちが美術学習を楽しみながら、美術知識を習得することである。

2）“設計・応用”学習領域はデザインに対し、創造的な意識やデザインの機能性を強調している。特にデザインは現実的に環境を改善し、日常生活をもっと効率的で、便利な生活を促す目的である。そのため、従来の環境と生活を“美化”するだけではなく、“改善”することがデザインの本来の意図である。また、具体的な学習内容からみると、この領域は現代的なデザインの基礎と伝統工芸の内容も含められている。

3）“鑑賞・評述”学習領域はもっとも重要な学習領域であり、その他の三つの領域の授業活動に基礎的な作用を行っている。2011年の《標準》は“美術現象”を鑑賞と批評の内容範囲に加えた。また、この領域では生徒が授業活動を通して、作品の内容、芸術スタイル、社会的背景、作者の考えなどについて、言葉や、文字、行動で自分の感想や理解を表す。“身体行動”で“視覚理解”を表すことがこの領域の最大の改善点である。そのほかに、学習領域の説明において、授業中の注意事項に幾つかの提案がある。例えば、学生が参加することの重視、授業方式の多様化、美術と社会との関係の注目、地域文化資源を開発するなど、これは新課程が提唱している実践例である。

4）“総合・探索”学習領域では素質教育は美術授業での具体的な実践であり、科目を超えた面で生徒の総合的に問題を解決する能力を養い、各科目を分けた不足分を補足する。それで、2011年の《標準》において、教師が美術科目の造形的、視覚的、実践的な特徴を注目し、その他の科目内容との関連を強化しながら、多様な授業内容を開発する必要である。また、授業活動において、生徒が自ら習うことで、積極的に美術と他の科目や社会生活との関連を探索するように導く。

3．教材編成の改善

美術教材は生徒が美術学習するときの重要な媒介であり、教師の教学を実現するときの重要な参考資材でもある。美術教材において多面的、開放的な内容を持つことは今回課程改革の重要な部分となっている。それで、改正後の2011年の《標準》において、以下の改善ポイントがある。

1）“美術課程標準によって美術教材を編成することは科学的、合理的な教材内容を作る前提である。”《標準》は今回の課程改革の基本的な精神を体現し、素質の高い人材を育成、個人の幸せな人生を達成するための必要な教育政策である。また、多く専門家と実践者の知恵の結晶となっている。そのため、教材の編纂者は課程改革の本質的な精神を理解し、方向性を把握しなければならない。それに、教師と学生のために品質の高い美術教材内容を提供することである。教材を編成する際、教材の編纂者は“学生の発展を中心”にする精神を遣り通し、“学生の美術学習を基本的な視点”にすることである。

2）“伝統と現代、中国と諸外国の関係を適切に処理すること”が今回改正後の《標準》の１つの重要な内容である。教材の編纂者は美術の教科書の内容を編成する際、“特に優れた中国の伝統美術と民族、民間の美術を重視し、民族文化を発揚し、中国の特色を体現すること”、これは異議がない基本原則である。その上、編纂者は学生の芸術視野と新しい芸術に対する認知と判断能力をできるだけ開拓すること。外国の美術作品について、教材の編纂者は美術史において、すばらしい作品を適切に美術課程の内容に体現するように。

3）出版において、改正後の《標準》はいくつかの期待を提出している。例えば、“出版部門は積極的に探求し、特色がある美術教材を編纂するようにすること。また、各地は積極的に地域教材と学校の特色がある教材を開発するように励ます。”これは美術の教材に対する多元化、多様化の１つの具体的な要求が明らかである。地域教材と学校の特色がある教材を開発することは美術教材の発展方向である。

4．授業観の改善

1）改正後《標準》は“積極的に全体の学生に向かう”という核心的な内容を加えている。この述べ方はすべての学生が美術学習の権利を尊重することを目指す。教師の教学にとって、二つの大切な意味がある。１つは学生に応じて適切な教育を行い、異なる学年とクラスの学生の美術学習を配慮すること。もう一つは教育環境の面から見ると、農村と内陸地域の学校美術教育は重要視するようにすること。現場の美術教師にとって、積極的に地域の美術文化資源を開発し、適応性がある美術の教授法と手段を工夫するように求められた。

“全体の学生に向かう”あるいは“学生を中心にする”という教育観を基礎にする上に、積極的に有効な授業方法を探求することは問題解決の鍵である。これに対し、教師は授業の各関連部分を計画する必要がある。例えば授業目標の制定、自ら学び、共同で学ぶなどの学習方法の応用、授業評価の実施などである。

2）“創造精神を奮い立たせる学習の雰囲気を造ること”は改正後の《標準》の特色がある内容である。今回の《標準》はもっとも具体的な方法を提出した。例えば問題の状況を設置すること、学生が独自で考えるようにすること、創意工夫をする、また“美

術言語や各種の媒材を創造的に運用し、問題を解決すること”。これは教育界が提唱した“問題解決を基礎にして学ぶ”という考えの具体的な応用例である。また、授業の提案について、学生の健康的、楽観的な意識と継続的な学習精神を育成することが提唱されている。これは《標準》の“情感、態度、価値観”という目標を追加することである。

5．課程資源の改善

1）課程資源の開発と利用することは美術課程内容を開拓し、授業方式や手段を豊かにする必要な一環である。改正後の《標準》は美術課程資源について、学校内の資源、自然資源、社会の資源とネットの資源の四種類を指摘している。そして、美術課程資源の開発の目的として、美術授業の内容を豊かにし、効率的な美術授業の効果を高め、特色のある地域美術教育を目指している。

2）改正後の《標準》は“学生の美術学習の基本的な環境を造ること”と美術授業の基本材料や設備を完備させることが明確的に提出し、美術授業を順調に展開するように目指す。これは“全体の学生に向かう”授業理念の体現であると考える。

3）視覚文化の時代に応じ、“映像の資源”は明確的に美術課程資源の範疇に入れたのは今度の《標準》の新たな内容である。教師は積極的に映像資源を探し求め、美術授業での応用を求めるようにすること。

4）校外の美術課程の資源について、“動物園、植物園、公園、遊園地、お店、コミュニティ、集落”などが今回新たな内容である。即ち、学校美術教育と学生の日常生活を近づけさせることを目的としたものと思料される。

5）それ以外に、“自然と社会文化の資源を十分に利用すること”、“地域の美術課程資源を積極的に開発すること”は改正後の《標準》の重要な提案である。美術教師は自然やコミュニティに近づき、地域の自然、文化財と社会生活などの資源を十分に利用し、多様な美術授業活動を行うことを求められた。また、農村、内陸地域と少数民族地域の美術課程資源の開発に対する提案を提供している。これらの地区の美術の実践者は“その地域に適した方法を採用すること”を奨励し、地域の特色がある美術授業を積極的に行うようにすること。また、様々なルートを考え、ネットを利用し、優れた美術教育資源を導入し、美術授業の効果を高めるようにすること。

以上は2011年公布された《標準》において、特に強調されている内容の分析である。すべての面においては素質教育方針に基づき、学生を中心にすること、学生の総合的な能力、問題解決する能力、創造精神や学習能力、実践能力を養うことが期待されている。これからの美術教育課程において、教材研究に対するカリキュラムの総合性が求められている。たとえば、美術科目と他の科目との関連、生活とのかかわり、各領域の総合など、現場の授業でどのように実施されているかが課題になると考える。また、授業評価に対する多様化、整った美術学習の環境などについて、教育関係者の理解や努力が必要になると思われる。

参考文献：

1．2011年《全日制義務教育美術課程標準》中華人民共和国教育部　北京師範大学出版社 2012年２月
2．美術課程標準（改訂）の説明 http://www.docin.com/p-276685653.html2013年５月５日